



コンサート 自然真當樂・その式

日時 2025年12月16日 火 TUE.

開場 18:30 / 開演 19:00

会場 アクロス福岡 円形ホール
福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡1階

作曲・編曲・構成・企画 | 河合拓始

主催 | くさびら企画

出演

河合拓始 | ピアノ他

上野ゆみこ | 打楽器、ヴォーカル他

内田遼 | トロンボーン他

梶大也 | オーボエ他

長津結一郎 | 鍵盤ハーモニカ他

川内依子 | 群読、歌他

松崎壺慧 | 群読、歌他

松崎早織 | 群読、歌他

辻菜津子 | ダンス

新部健太郎 | 体術

ご挨拶



本日はお忙しいなか、コンサート『自然真當樂・その式“自然真當祭”』にお越しくださり、ありがとうございます。

くさびら企画（旧名：クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会）主催の公演を、ここアクロス福岡円形ホールで、毎年12月に開催するのも五年目になりました。毎回異なった演奏曲目やコンセプトで行っていますが、さまざまな暗黙の“垣根”のようなもの（プロフェッショナル/非プロフェッショナルの、表現ジャンルの、など）を下げて行きたいという目論見は一貫しています。

この三年間は江戸時代の思想家・安藤昌益に刺激を受けてのプロジェクトとして継続しており、今日は2023年に開催したコンサート『自然真當樂』の続編という格好です。昌益独自の概念や思想を紐解きながら、表現に展開させています。歌、朗読、会話劇、器楽曲、ダンス、パフォーマンスが交錯し、音/音楽と言葉と身体が水平的に交わる舞台を企画しています。受け取っていただけましたら幸いです。

観客の皆様にも声などで参加していただく場面もあります（強制ではありません）。

どうぞお楽しみ下さい。

河合拓始／くさびら企画

- 音響・録音：江島正剛（ジャバラ倶楽部）
- 照明：内田正信（アクトワン）
- ピアノ調律：川内順一郎（ピアノファクトリー・クジラ）
- 映像収録：牧園憲二
- チラシ・ポスター・パンフレット製作：楽々市場



企画・構成：河合拓始

主催：くさびら企画

協力：九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室、（株）Studio Kura、毛利嘉孝様（東京芸術大学）、大倉貞俊様（Pushrod）、半代明良様（島津稲荷神社）、森様（都城市役所地域振興課）、鐘ヶ江進様（武満徹の小宇宙企画の会）、中村勇治様、亀井ひろ子様

謝辞：山内英正先生（兵庫歴史教育者協議会会長、元・甲陽学院中学校高等学校教諭）

後援 | 福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団

助成 | (公財)福岡市文化芸術振興財団「FFAC ステップアップ助成プログラム」
(公財)朝日新聞文化財団

令和7年度第62回福岡市民芸術祭参加



テキスト 安藤昌益(一部現代語訳・翻案：河合拓始)

作曲・編曲・作詞・台本構成 河合拓始

1 『無始無終』 | パフォーマンス

むしむしゅう

■河合拓始、上野ゆみこ、内田遼、梶大也、川内依子、辻菜津子、長津結一郎、
新部健太郎、松崎栞慧、松崎早織

2 『半天』 | 水平アンサンブル

はんでん

■オーボエ・声・身体：梶大也 ■トロンボーン・声・身体：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ・声・身体：長津結一郎
■ピアノ・声・身体：河合拓始 ■打楽器・声・身体：上野ゆみこ、川内依子、松崎栞慧、松崎早織
■身体・声：辻菜津子、新部健太郎

3A 『鼻と唇』 | 会話劇

■河合拓始、上野ゆみこ、内田遼、梶大也、川内依子、長津結一郎、松崎栞慧、松崎早織

3B 『鼻は金の気、唇は火の気』 | 歌

■歌：上野ゆみこ、内田遼、梶大也、川内依子、長津結一郎、松崎栞慧、松崎早織
■ピアノ：河合拓始

3C 『シケケシ』 | 歌

■歌：梶大也、川内依子、長津結一郎、松崎栞慧、松崎早織 ■ピアノ：河合拓始
■トロンボーン：内田遼 ■打楽器：上野ゆみこ

4 『白摺唄』 | 福岡県糸島市民謡／パフォーマンス

うっすりうた

■歌：上野ゆみこ、川内依子、松崎早織 ■クラリネット：梶大也 ■トロンボーン：内田遼
■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎 ■ピアノ：河合拓始 ■体術：新部健太郎、松崎栞慧

5 『ミチ』 | 器楽アンサンブル／ダンス

■クラリネット：梶大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■ピアノ：河合拓始 ■打楽器：上野ゆみこ ■ダンス：辻菜津子

6 『十五夜綱引唄』 | 宮崎県都城市郡元町民謡

■歌：梶大也、河合拓始、長津結一郎、松崎栞慧
■打楽器：上野ゆみこ、内田遼、川内依子、松崎早織

7 『高島節』 | 長崎県長崎市高島民謡

■歌：川内依子、松崎栞慧、松崎早織 ■歌・オーボエ：梶大也 ■歌・鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■歌・打楽器：上野ゆみこ ■トロンボーン：内田遼 ■ピアノ：河合拓始

8 『四三の曲』 | 水平アンサンブル

しさん

■オーボエ・星：梶大也 ■ホルン・星：長津結一郎 ■トロンボーン：内田遼 ■ピアノ・鍵盤ハーモニカ：河合拓始
■鉄琴：上野ゆみこ ■星：川内依子、辻菜津子、新部健太郎、松崎栞慧、松崎早織

9 『やみのふね』 | 歌／パフォーマンス

■歌：川内依子、松崎杏慧、松崎早織 ■歌・オーボエ：梶大也 ■歌・鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■ヴォーカル・打楽器：上野ゆみこ ■トロンボーン・打楽器：内田遼 ■ピアノ：河合拓始
■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

10 『箕星』 | 水平アンサンブル

■オーボエ：梶大也 ■ホルン：長津結一郎 ■トロンボーン：内田遼 ■打楽器：上野ゆみこ
■星：河合拓始、川内依子、辻菜津子、新部健太郎、松崎杏慧、松崎早織

11 『田の草取り唄』～『田植唄』 | 福岡県糸島市民謡

■ヴォーカル：上野ゆみこ ■ピアノ：河合拓始

12 『やどりき(宿気)』 | 器楽アンサンブル

■オーボエ：梶大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■ピアノ：河合拓始 ■打楽器：上野ゆみこ

13A 『舌と歯』 | 会話劇

■河合拓始、上野ゆみこ、内田遼、梶大也、川内依子、長津結一郎、松崎杏慧、松崎早織

13B 『舌は火の気、歯は金の気』 | 歌

■歌：上野ゆみこ、内田遼、梶大也、川内依子、長津結一郎、松崎杏慧、松崎早織
■ピアノ：河合拓始

13C 『歯の音楽』

■歯：上野ゆみこ、内田遼、梶大也、河合拓始、川内依子、長津結一郎、松崎杏慧、松崎早織

14 『須和来』 | 歌／ダンス

■歌・オーボエ：梶大也 ■歌・鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■歌・スライドホイッスル：川内依子、松崎杏慧、松崎早織 ■歌・打楽器：上野ゆみこ
■トロンボーン：内田遼 ■歌・ピアノ：河合拓始 ■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

15 『ひゅうがメコン』 | 器楽アンサンブル

■オーボエ：梶大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■ピアノ：河合拓始 ■打楽器：上野ゆみこ

16 『稲妻唄』 | 歌／器楽アンサンブル／ダンス

■歌：川内依子、松崎杏慧、松崎早織 ■歌・オーボエ：梶大也 ■歌・鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■歌・打楽器：上野ゆみこ ■トロンボーン：内田遼 ■ピアノ：河合拓始
■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

■ **安藤昌益(あんどう・しょうえき)** について：1703-1762。生涯には不明の点も多いが、秋田県大館の生まれ。若い頃京都で仏道の修行をしたと言われるが、後に離れ、医学を修めた。江戸で活動した時期もあるかもしれない。四十歳前後から青森県戸で町医者として活動した。猪ケガチと言われる飢饉(とその際の社会の矛盾)が思想を深化させ、『自然真営道』(稿本)が主著とされる。晩年の数年は郷里の大館に戻った。他の著書に『自然真営道』(刊本)、『統道真伝』。※コンサートタイトルの『自然真営堂(しぜんしんえいどう)』は、昌益の主著『自然真営道(しぜんしんえいどう)』から採っています。

※昌益のテキストは、原文によるもの（書き下し文）の他に、河合による現代語訳・翻案も含みます。

※作曲年の書かれていない曲は、2025年新作（初演）です。

1 『無始無終』 | パフォーマンス

2023年の公演『自然真営楽』では、全プログラムが終わって答礼のあとに、観客の皆さんもその場で声で参加する『無始無終』というパフォーマンスを行いました。アンコール・ピースのような格好でした。今日のコンサートは、前回それで終わったものから始める、というまさに「無始無終」の趣旨で、開始しようと思います。

2 『半天』 | 水平アンサンブル

今回、創作上“水平アンサンブル”と名付けている演目が幾つかあります（**2**、**8**、**10**）。楽器/声の演奏も、ことばの応酬も、身体表現のやりとりも、どれかが主導しているのではなく、互いに水平的な関係であるという趣旨です。どれかが他を導く垂直的な形ではない、関係性のあり方です。安藤昌益は「互性（ごせい）」という用語を案出して、対立物もしくは別物と思われる二物が、実際は互いの性質の内に深く入り込み別個の物ではないことを言いました。その敷衍の一種です。音/音楽も、ことばも、身体表現も、根っこを共有しているのではないかという私の考えの具体化でもあります。

3A 『鼻と唇』 | 会話劇

昌益は、顔にある八つのパーツ（＝まぶた、目玉、耳輪（いわゆる耳のこと）、耳穴、鼻、唇、舌、歯）の相互関係について語っています。一昨年の公演では、このうち眼と耳の相互関係を主に取りあげましたが、今回は、鼻と唇、舌と歯について、語り、歌います。昌益はまた、江戸期当時の五行論（万物が木火土金水の「気」（エネルギー）から成り立つ）を読み替え、万物の根本に土を置き、その上に木火金水の“四行”の相互関係があると考えました。陰陽論に対しては、優劣や上下関係を含意していると反対し、陰陽ではなく進退だ、と概念を転換しています。気は、天地（昌益は“てんち”を転定と書きます）を巡り、星々・人間の身体（顔や内臓や四肢）・時間の推移（昼夜・季節）など様々な現れをしますから、顔のパーツも、気や天体や内臓とも対応関係を持っていると言えます。

まず**3A**では、鼻と唇が“互性”的に対応する関係性について、話題にします。

3B 『鼻は金の気、唇は火の気』 | 歌

歌詞は、『自然真営楽』（稿本）の『大序巻』で述べられている、鼻と唇の関係性の部分から。

（歌詞：） 鼻は、進む金の気。

唇は、進む火の気。

互性なり。

鼻は嗅ぐことをつかさどる。

しかして諸々の香臭を発するは火のつかさどるところなり。

外よりの香臭、唇、まずこれを受く。されど同じ火の気なるゆえ、これを知らず。

唇より鼻に告ぐ、鼻は清浄なる金の気、よく嗅ぎ分ける。

ゆえに鼻の性は唇なり！

唇、言語をつかさどる。

火の気にして、つねに動動して言語す。

されど、音なければ言語にあらざ。

鼻の金気にあらざれば、言語できず。

ゆえに唇の性は鼻！

鼻の嗅ぐ用達するとき、唇の語る用、止む。

唇の語る用達するとき、鼻の嗅ぐ用、止む。

真に嗅ぐときは、

七門の妙徳用、鼻に伏して、嗅ぐの一映（いちおう）となる。

これ、活真の嗅ぐなり。

真に語るとき、

七門の妙徳用、唇に伏して、語るの一映（いちおう）となる、

これ、活真の語るなり。

※「活真」は万物の根本エネルギーを言う。土のエネルギーでもあるから、土活真とも言われる。

※「七門」は、顔の八つのパーツすなわち「八門」のうちの、七つを指している。

3C 『シケケシ』 | 歌

『自然真営道』(稿本)の『真道哲論巻』に収められた“声音韻の所以論”では、言葉の音(おん)と四行との対応関係を論じています。いわゆる“五十音”から、ヤ行の二音とワ行の四音を除く“四十四音”において、三十二音が木火金水の四行に八音ずつ対応し、十二音が土に対応すると言っています。例えば、「シ」は(進む)金の気、「ケ」は(進む)火の気であり、「シ」と「ケ」は互性の関係にあります。また、「シ」には「シャ」「シャウ(ショウ)」という変化形があり、この計三種の形は、気の巡りの様態の三種(通気・横気・逆気)のあり方と同じだと言います。「ケ」にも「ケイ」「ケャウ(キョー)」という変化形があります。これらの互性関係を歌にしてみました。「ヒ」は(退く)金の気、「メ」は(退く)火の気で、これも互性の関係です。「ヲコント」「ノホモヨ」「ロハマス」は、土の気です。

(歌詞:) シケケシ シケケシ (×4)
シャケイケイシャ シャケイケイシャ (×4)
シャウケャウ シャウケャウ ショーキョー ショーキョー (×2)

ヒメメヒ ヒメメヒ (×4)
ヒヤメイメイヒヤ ヒヤメイメイヒヤ (×4)
ヒャウミャウ ヒャウミャウ ヒョーミョー ヒョーミョー (×2)

ヲソコト トコソヲ (×2)
ヨホノモ モノホヨ (×2)
ロハスマ マスハロ マハハマ ハマ

シケケシ シケケシ (×4)

4 『うっすりうた(臼摺唄)』 | 福岡県糸島市民謡／パフォーマンス

本日の出演者の半数が居住する糸島市に伝わる民謡です。三苫恵一・採譜『糸島における民謡と童唄』(私家版冊子、1980年)で知りました。臼摺りの作業パフォーマンスと並行して、歌います。

(歌詞:) 臼が舞うかよ 遣り木(やりき)が舞うかよ
臼と遣り木の あいだが舞うよ

臼は摺れ摺れ 庭のコメはさばけぬ
庭がさばけにゃ 夜は更けぬよ

臼は摺りたむなし 夜食は欲しいよ
茶碗 がらめきや 目が覚めるよ

沖のとなかに 茶屋かけおいで
上り下りの 舟を待つよ

籠の鳥じゃと 悔やむな娘よ
籠の破れる 時もあるよ

5 『ミチ』 | 器楽アンサンブル／ダンス (作曲1986年頃 / 編曲2025年)

京都で学生をしていた1986年頃、『Ton-Tong Fabric』というバンドを結成して何曲かオリジナルを作ったが、短期間で解散してしまっただ。そのオリジナルの一曲。ピアノ / キーボード、エレキギター、パーカッションの編成だったが、今回五重奏に編曲。元の題は『レ・ヴィエ』(道の複数形、なぜかイタリア語で命名した)でしたが、今回は『ミチ』に改題。

6 『十五夜綱引唄』 | 宮崎県都城市郡元町民謡

『日本民謡大観』という往年のレコードプロジェクトの九州編を風流しに聴いていたとき、この唄の空気感とサウンドに強い印象を受けました。宮崎県都城市郡元町の伝承歌ですが、今は後継者がおらず途絶えてしまっているとのこと。

(歌詞:) 十五夜お月様 はよ出たもれ 郡元(こおりもと)綱引き 皆諸共に
揃た揃たよ 綱引き揃た お宮の前で面白や
様は百まで わたしゃ九十九まで 共に白髪の生えるまで

7 『高島節』 | 長崎県長崎市高島民謡

明治期に炭鉱の島となった高島（現：長崎市）に伝わる歌。歌詞に出る三五郎は、炭鉱夫の住まいである“納屋”のカシラの“鬼の三五郎”のことという。グラバーは、グラバー邸で知られる武器商人のT.B.グラバー（1838-1911）。明治維新のころ、設備投入して高島炭鉱を経営した。

（歌詞：） 島と名のつぎゃ どの島も可愛い まして まして高島 なお可愛い アラ ショッカ ショッカネー
わたしゃ高島の なよ竹育ち 潮に 潮に揉まれて なよなよと アラ ショッカ ショッカネー
わたしゃ高島の 埋れ木娘 いつか いつか世に出て 炭となる アラ ショッカ ショッカネー
わたしゃ高島の 三五郎さんの娘 嫁に 嫁にとるなと 状がまわる アラ ショッカ ショッカネー
金でかためた グラバーさんの納屋も ひとつ ひとつ間違いや 皆殺し

8 『四三の曲』 | 水平アンサンブル

昌益は天体と人体の関連性を説くなかで、北極星そして北斗七星を重要な天体と考えていました。天の北極方向に位置する北斗七星は、「四三の星」と呼ばれることもあり（ひしゃくの形になぞらえられる七星の升の部分が四星、柄の部分が三星）、題名はそれに由来します。楽器のフレーズと、北斗七星をあらわす七名の動作が、呼応しています。なお、天体の「星」と、地上の「石」は、気として対応していると昌益は言っています。星が地上に降って石になる、とも。隕石の知識が昌益にあったのかどうかは不明ですが。

9 『やみのふね(闇の舟)』 | 歌／パフォーマンス(作曲2020年／作詞2025年)

ポリネシアなどでの伝統的な航法（星の位置の観察による航海法）のイメージが背景にあります。**8**の天の北極から、**10**の天の南極へと向かうことに重なっています。

（歌詞：） 海を越えるユラリ舟 闇のへだても 何のその
星の助けですべりゆく まっしぐら

またたき ビン!と聴けば
眉間で パン!と感じる
へそでな ぐるぐる行けよ
まぶたと 耳輪で 渦巻いて
闇の さなかに 進みゆく

10 『箕星(みばし)』 | 水平アンサンブル

天の南極に位置する南斗六星は、日本の諸地域で、「箕」の形になぞらえて箕星（ミボシ）その他の呼び名を持っています。**8**と同様、星座のかたどりをしつつ、身体／ことば／音が相互作用する水平アンサンブルです。

11 『田の草取り唄』～『田植え唄』(メドレー) | 福岡県糸島市民謡

ヴォーカルとピアノのデュオです。稲・稲作を、昌益は最大限に重要視しています。みずから土と触れ合い農作業を行うことが、昌益の大事な概念のひとつ「直耕（ちようこう）」の原意です。しかし直耕は、ひいては生活全般の作業のことでもあり、人や万物の本来的な働きに添って行う行動のことでもあります。**4**での白刈りも直耕のひとつであるでしょう。

（歌詞：） 腰の痛さよ 畝間地（せまち）の長さ 四月五月の 日の長さ
何をくよくよ 川端柳 水の流れを 見て暮らす
高い山には 霧というて隠る わたしゃあなたに キリはない
惚れて通えば 泥田の水も 呑んで甘露の 味がする

12 『やとりき(宿気)』 | 器楽アンサンブル

ミャンマーのアンサンブル“サイン・ワイン”が刺激になっているかもしれません。

13A 『舌と歯』 | 会話劇

3Aと同様、今度は舌と歯の互性的な関係について語ります。

13B 『舌は火の気、歯は金の気』 | 歌

(歌詞：) 舌は、退く火の気。歯は、退く金の気。互性なり。

舌は、火の気で、動き止まらぬ。歯は、金の気で、じっと動かぬ。

舌、味をつかさどるといえども、歯、咬んで与えざれば、味わうことできず。

ゆえに舌の性は歯なり。

歯、堅く食を咬むに動動するは、舌よりこれをなす、

ゆえに歯の性は舌。

舌と歯は互性にして、食の妙道を尽くすなり。

舌は心臓の根、太陽の備わり。天の中分をめぐる。ゆえに口の中分にある。

歯は肺臓の根、星々の備わり。天の八方をめぐる。ゆえに舌の外、八方にある。

転にあては、火は太陽。金は金星。互性なり。

火の性は照らし、金の性は光り。互性にして、昼をつかさどる。

舌と歯は互性、咬み味わって、人の身を養う。咬み味わうとき、眠ることできず。これ、昼の妙道なり。

舌と歯、火と金、互性の妙道止むことなし。

13c 『歯の音楽』

8で述べた「星」「石」の呼応関係は、人体においては「歯」と対応していると昌益は言います。星一石一歯、さらに打楽器の打音（足踏みなども含む）も、どこか通底するエネルギーがあって、そしてそれは抵抗やプロテストのアクションとも関連するイメージではないかと（河合は）感じています。

14 『須和来(すわらい)』 | 歌／ダンス

ややラップに近い歌です。スライドホイッスルや鍵盤ハーモニカの即興パートも含まれます。

(歌詞：) 静々と歌い始めは 肝心要に参ります

古い言葉を読み解いては 明かりに変え変え灯します

喜びよ増せまし増します 言葉と音と踊りと白

さしあたり皆さん方には 目玉と耳で表してよ

いかめしい言葉と戦え 後から後から湧き出せよ

じわじわと身体に訊いて 味わい尽くして遊びたおせ

目覚めては けりかり まんじん

さりげなく すかさず 金柑

選り好み したらば 満タン

けものと サカナとが シャンシャン

この世の向こう側で 生きてる人たちは

ばくらを導く その声を捨て去れ!

鼻から耳へと 抜ける話じゃない

息を吹き返せ! シスター、シスター!

足止めの苦しみだなんて 身から錆だとやりこめるよ

謹しみに澄まし疲れては 帯も紐も解いて放つよ

泥水と武蔵野時雨と さざめく土偶が叫び出す

五月雨に乱れ打ち歌い まくり広げるよ色の先

いきなりのどんしゃんつづらは すつとび転げるチントンシャン

死んでから楽しむなんて 気の長い話に乗りはしない

目覚めては けりかり まんじん

さりげなく すかさず 金柑

選り好み したらば 満タン

けものと サカナとが シャンシャン

かきつばた 啜えて 感嘆

雪水が 溶け出す じゃんじゃん

生きてるよ 夜通し 万端

だれず 抱き止めるが 肝心

自らの中に 星がまたたいている

行方を定めて 心決めて進め

鼻から耳へと 抜ける話じゃない

息を吹き返せ! ブラザー、ブラザー!

シスター、シスター! ブラザー、ブラザー!

死んでから楽しむなんて 気の長い話に乗りはしない

死んでから生き直すなんて 気のない話に乗るんじゃない

死んでから生きるだなんて 気の長い話に乗りはしない

15 『ひゅうがメコン』 | 器楽アンサンブル

この曲は、宮崎県のある民謡の三味線のリズムから発している。昌益は必ずしも歌舞音楽を肯定してはいなかったようで、人心を蕩かすようなものには批判的だった。関係性を水平的に作っていくような音楽ならば、どう思っただろうか。

16 『稲妻唄』 | 歌／器楽アンサンブル／ダンス

稲妻のあれこれを歌詞にしてみました。天地（転定）の間をつなぐ“電気”も、自然の働き。古来、稲妻は稲の実りを助けると言われていました（空気中の窒素を固定する働きを持っているようです）。これもひとつの自然真営道かもしれないと思いつつ。

（歌詞：）雲に閃めく（ア チョイナ ヨイナ）エレキの余り（ア ソリヤ コリヤ）

ぎざぎざガガの（ア トイニヤ ビョイニヤ）稲妻 ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

木を切り裂いて（ア チョイナ ヨイナ）火花散らして（ア ソリヤ コリヤ）

地球突き刺す（ア トイニヤ ビョイニヤ）一撃 ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

足を踏みしめる 星の上に立つ

湯気が沸きたつよ ヴェイバライゼイション

電光石火で（ア チョイナ ヨイナ）早わざ見せる（ア ソリヤ コリヤ）

素早いパンチ（ア トイニヤ ビョイニヤ）あつという間 ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

稲草伸びよ（ア チョイナ ヨイナ）稲玉付けよ（ア ソリヤ コリヤ）

地面に放て（ア トイニヤ ビョイニヤ）稲光 ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

生き死には同じなの？ 眼りは耳で聴く

目蓋を閉じればね 直観の世界

トグロの蛇も（ア チョイナ ヨイナ）白と茶の鳥も（ア ソリヤ コリヤ）

引き手 数多に（ア トイニヤ ビョイニヤ）紙垂（シデ）から ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

へその緒取ったか（ア チョイナ ヨイナ）カエルかえすよ（ア ソリヤ コリヤ）

輪っか 中 廻る（ア トイニヤ ビョイニヤ）

びつき びつき ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

島に生まれたよ 地球に生まれたね

宇宙が生まれるよ 飲み込め 飲み込め

いなずま 打っては（ア チョイナ ヨイナ）かみなり 鳴るよ（ア ソリヤ コリヤ）

返す囃子で（ア トイニヤ ビョイニヤ）芽吹けば ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

（註）ヴェイバライゼイション（vaporization）：蒸気化

稲玉＝稲につく麴菌

紙垂（シデ）：稲妻の形を模している

びつき＝方言で「カエル」の意

なお下記もぜひご覧ください。



『自然真営楽・その式』
特設サイト

<https://www.ne.jp/asahi/kawai/takuji/index3.html>



『自然真営楽・その式』
特設ブログ

<https://shizen.asablo.jp/blog/>



河合 拓始

Takuji Kawai

作曲、編曲、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、歌、声、身体

1963 年兵庫県神戸市生まれ。幼時よりクラシックピアノを学び、その後現代音楽に興味を持つ。1987 年頃から即興演奏を始める。京都大学卒業後、1991 年東京藝術大学大学院（音楽学専攻）修了。在学中から即興音楽家としてソロやアンサンブルのほか様々なジャンルのアーティストと共働する。近年は現代音楽作品コンサートと即興ライブのほか、作曲、朗読や舞踊との共演、ことは表現やパフォーマンス、一般の方々とのワークショップなど活動は多岐に渡る。2008 年・2012 年欧州演奏旅行。2011 年ニューヨークでの第一回 UnCaged Toy Piano Festival に招聘参加。東京で二十数年活動後、2012 年から福岡県糸島市在住。CD に図形楽譜による「一柳慧ピアノ音楽」(Omegapoint) など。詩集に「何か、十一篇」(書肆侃侃房)。2021 年、任意団体「くさびら企画 (旧名: クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会)」を立ち上げ、現代音楽・即興音楽の公演を企画する。2023 年から安藤昌益に刺激された「自然真當樂」プロジェクトを続けている。現在、CD「四行妙道の楽・一具」リリース準備中。
公式ウェブサイト: <http://www.sepia.dti.ne.jp/kawai/>



出演者紹介

Performers



川内 依子

Yuriko Kawachi

歌、声、身体、スライド・ホイッスル

京都市生まれ。福岡市在住。カフェナギコバスキという屋号で様々なイベントに出張カフェ等を開催し、食べ物を通じて、人と人が繋がる楽しい場づくりを展開する。友人の家になっている果物と国産の粉等を使って素朴に焼き上げたお菓子や天然酵母パンの製造販売、オーガニック・フェアトレードコーヒーの自家焙煎を行っている。2016 年より表現塾に参加。



上野 ゆみこ

Yumiko Ueno

ヴォーカル、打楽器、歌、声、身体

学生時代より独学でドラム・パーカッションを学び、ジャズ・ロック・ラテン等様々なジャンルの演奏を経験。頭数合わせで参加したイベントをきっかけにブラジル音楽に傾倒、故・本田健太郎氏にブラジル音楽全般とバンデイロを師事。その際、歌曲の多いブラジル音楽の魅力に触れ歌いはじめる。歌を JAZZ シンガーの Mayumi 氏に師事。これまでに福岡・東京・長崎・山口・佐賀のジャズクラブ、ホテル等で多様な演奏経験をもつ。2014 年には1ヶ月間ブラジルに遊学。現在は、ピアノとのブラジリアン DUO [Bossa Sol] 他、様々なセッションでボサノバ/サンバ/MPB 等、垣根を越えた表現を追求している。2026 年には初の CD リリースを予定。趣味さんぽ。



松崎 壱慧

Ikkei Matsuzaki

歌、声、身体、スライド・ホイッスル

現代音楽などなどに囲まれて育つ“忘れ物名人”、ついに 5 年生になりました! 2 年前のプロフィールでは「エリーゼのためにを弾けるように早くになりたい!」と宣言していましたが…実はまだ絶賛目標継続中。でも、英語だけはアプリで毎日コツコツ続けて、少しずつ話せるようになってきました。“The song was hard, but I will do my best!”



内田 遼

Ryo Uchida

トロンボーン、打楽器、歌、声、身体

福岡を中心に活動するトロンボーン奏者。広島県出身。ポピュラー音楽、特にサルサなどのラテン音楽をメインに、演奏や作曲編曲を行う。2015年、ラテンジャズバンド Filomela を結成。オリジナル曲を多数作曲し演奏、各種イベントに出演する。2024年、カジュアルサルサバンド Orquesta Violeta を結成。ラテン音楽シーンに新しい風を吹き込むべく活動中。大学在学時からテリー・ライリー「In C」、ジョン・ゾーン「COBRA」などの即興や現代音楽の演奏にも参加する。2021年より、河合拓始企画のコンサートシリーズに出演。趣味は野鳥観察。鳥や花などの身近な自然を題材としたオリジナル曲も多い。webサイト

<https://rutbn145.com>



裕 大也

Masaya Kakoi

オーボエ、クラリネット、歌、声、身体

1990年生まれ、福岡県出身。福岡大学在学中、九大フィルハーモニー・オーケストラに在籍し、オーボエ、学生指揮を担当。その後は芸工アヴァンギャルド・コンソート等で古楽、現代音楽の演奏を行う。近年は九州交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団等に曲目解説を、『音楽の友』、『Mercure des Arts』に音楽批評を寄稿し、地元小郡市で演奏会の企画、開催も行う。主要業績に「砂川闘争における「流血の砂川」と《赤とんぼ》の歴史的記憶」、『音楽学』第71巻1号、2025年）などがある。現在、九州大学大学院芸術工学府博士後期課程在籍中。



長津 結一郎

Yuichiro Nagatsu

鍵盤ハーモニカ、ホルン、歌、声、身体

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。1985年北海道生まれ。ピアノ、合唱、吹奏楽、オーケストラ、路上ライブ、インディーズバンドなどの活動を通じすくすく育つ。2016年より福岡を拠点とし、ワークショップやアートマネジメントに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースなどを行う。2005年 PTNA ピアノ・コンペティション全国大会入選（グランミューズ部門 Y カテゴリー）。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程（芸術環境創造）修了。現在、九州大学大学院芸術工学研究院准教授。



松崎 早織

Saori Matsuzaki

歌、声、身体、スライド・ホイッスル

兵庫県生まれ。幼い頃から「切る・貼る・つくる」が大好きで、そのままだ「三つ子の魂百まで」を地で行き、気づけばアートが人生の中心に。日々の小さな発見を楽しみながら、出会ってきたあれこれと遊んだり考えたりしています。

糸島暮らしも長くなり、最近は地域とアートをつなぐお仕事に奔走中。ゆるく楽しく、でもしっかりと。今日もどこかで、アートのタネをまいています。



辻 菜津子

Natsuko Tsuji

ダンス、声

幼少期よりクラシックバレエを坂本順子氏に師事。13歳より美歌三智也氏・カ久映子氏の元でジャズダンス・モダンダンス（グラハムテクニック）を学ぶ。舞踏を原田伸雄氏に師事。20歳より恵ストレッチダンスのインストラクターとしてバレエ・ジャズ・コアトレーニング、障がいを持つ子ども達のダンスの指導にあたる。近年、グラハムテクニックの概念を盛り込んだ身体操作法を考案。洋舞、日舞、球技、武道 etc. ダンスやスポーツのジャンル / プロ・アマ問わず様々なアーティストやアスリート達に指導。踊りのジャンルを超え、カラダを動かすその意味や可能性を追求中。



新部 健太郎

Kentaro Niibe

体術、声

中国武術・易筮家。函館生まれ、福岡市在住。NPO法人「福岡気功の会」指導員・理事。東京操体フォーラム相談役。壺中堂中国武術教室主人。来福以来、気功および中国伝統武術、易学を学ぶ。一読書人として東洋思想を漫遊しながら、中国武術「八卦拳」の教授、易経講座、中洲スナック占い師、九州大学国際部「JTW」プログラム外部講師などを遍歴。2011年、「筮崎現代音楽祭」参加。2012年、書斎りる「周易カフェ」講師。2013年、「読書の快楽」松岡正剛氏トークライブにてオープニングアクトをつとめる。

DONATION



「くさびら企画」の公演活動にご支援を募っています。

今回のコンサート、そしてこれからの企画においても、有意義な音楽文化の一助となるべく、活動をしていきます。

篤志の皆様の継続的なご支援をお願い申し上げます。

ご送金の宛先は

福岡銀行 (銀行コード 0177)

糸島支店 (店番号 255)

普通口座番号 2295066

名義：くさびら企画



『自然真営楽・その式』
特設サイト

<https://www.ne.jp/asahi/kawai/takuji/index3.html>



『自然真営楽・その式』
特設ブログ

<https://shizen.asablo.jp/blog/>